

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2022年 12月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数、4「悪化」事業所数 4 の場合

好転: $+25\% \times 2 = +50\%$ 、悪化: $-25\% \times 4 = -100\%$ 差引: -50% が DI 値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要>

2022年 10-12月期の調査結果は主要 3DI 共に変化の幅はそれほど大きくなかったが、先行きの不透明さなどを背景として、景況はやや足踏み状態にあることを示している。

最新の日銀短観(2022年 12月)の調査結果によると、中小企業の業況判断 DI は足元では予想を上回ったものの、「先行き」の景況については悪化が見込まれる。新型コロナウイルスの今後の状況や、物価高、円安など中小企業の先行きへ影響を及ぼす懸念材料は依然として複数存在する。

2022年 10月 28日に閣議決定された「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」には、中小企業に対する支援策なども盛り込まれているが、これからも中小企業向けのきめ細かな支援、サポート体制の継続が必要となると見込まれる。

<地域別>

【全国】

2022年 10-12月期の全産業の業況判断 DI は、▲27.7(前月差 3.1pt 増)となり、前月から改善した。

製造業の業況判断 DI は、▲31.9(前月差 3.2pt 増)となり、前月から改善した。

建設業の業況判断 DI は、▲27.9(前月差 2.9pt 増)となり、前月から改善した。

商業の業況判断 DI は、▲36.1(前月差 8.1pt 増)となり、前月から改善した。

サービス業の業況判断 DI は、▲14.7(前月差 1.3pt 減)となり、前月から改善した。

サービス業以外は、前月に比べ改善している。しかし、全業種においてコスト高騰や人手不足が課題となっており、採算性の悪化から事業整理や廃業という選択をした事業者もいることから、業況は完全には安定していない状況である。

【兵庫県】

企業の業況判断は、足もととは横ばいだが、先行きは悪化すると見込んでいる。

個人消費は、緩やかに持ち直している。輸出は増加し、設備投資についても増加傾向にある。

生産は持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は、前月を下回った。雇用者所得は弱めの動きとなっている。

倒産件数は、前年を上回った。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲35.2 となり全国 DI(▲27.7)とも差があるが、兵庫県 DI(▲15.0)と比較すると差は大きい。

売上高は、▲20.4 であり、全国・兵庫と比較すると大きな差がある。

採算状況は、▲38.9 で業況と同様に兵庫県 DI(▲25.6)と比較すると差は大きい。

資金繰りは、▲37.0 で全国 DI(▲32.7)と比較すると大きな差は無いが、兵庫県 DI(▲10.8)と大きな差がある。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(商業 小売、卸売等)

- ・メーカーの商品値上げがあり、価格転嫁できず利益を逼迫している。
- ・昨年来、コーヒー豆や小麦などのパン材料の値上がり。更におしぼりや卵も値上がりしている。
- ・円安や原油高の影響で国産品よりも高い輸入品が増えてきている。

(建設業)

- ・木材やステンレスの不足かつ値上がりが続いており、落ち着く気配が無い。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染等の影響により工事が止まる等し、段取り替えを余儀なくされるため、工事完了が延びることにより、予定時期に請求が叶わず資金繰りの面でも影響は大きい。

(サービス業)

- ・コロナ禍をピークに需要の落ち着きが見られる

<業種別業況>

全国的には、全 DI が小幅に改善した。特に売上額 DI はプラス水準となり、直近 1 年で最も高い数値となった。クリスマス等の年末イベント需要の増加から、売上額 DI を中心に改善傾向の業種が多い。

また、行動制限緩和が続いており、需要の停滞は脱しつつある。その一方で全業種においてコスト高騰や人手不足が課題となっており、採算性の悪化から事業整理や廃業という選択をした事業者もいるとのコメントが見られた。

<総括コメント>

国内景気は、緩やかに持ち直している。

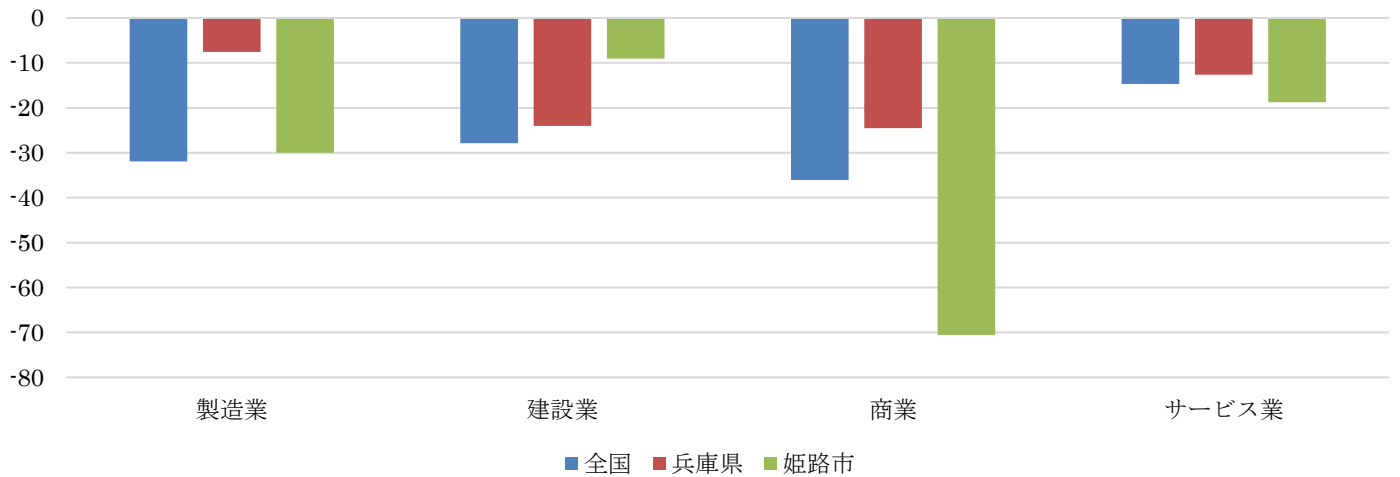
先行きについては、ウィズコロナの下で各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引き締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染動向に十分注意する必要がある。

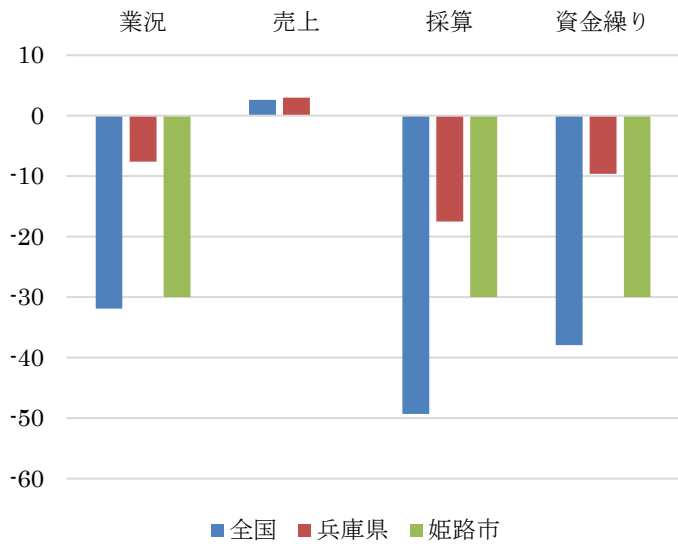
姫路市においては、ウィズコロナに向けた対策を万全に講じて、人流回復に伴う景気回復を期待したい。そのためにも、政府の経済対策(持続化補助金・事業再構築補助金等)も十分に活用しながら事業継続への取り組みを引き続き積極的に行う必要がある。

業種別 DI 比較グラフ

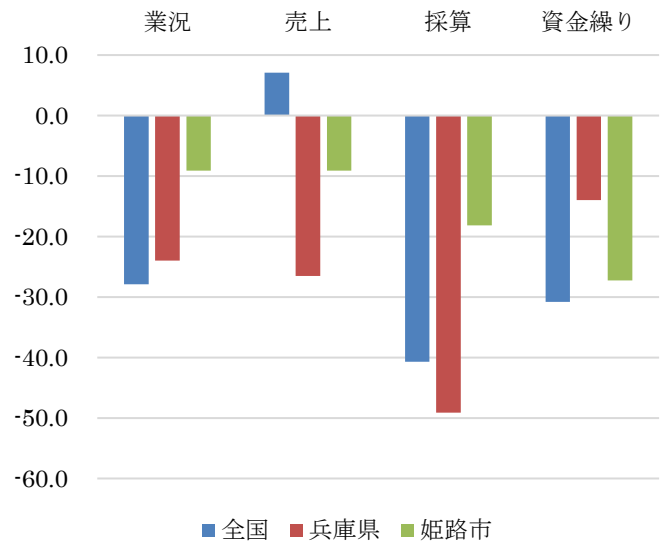
業種別 業況DI値比較



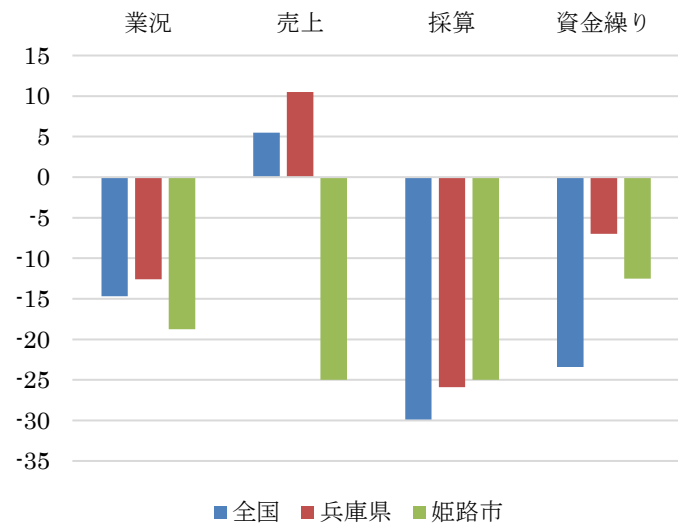
製造業DI値



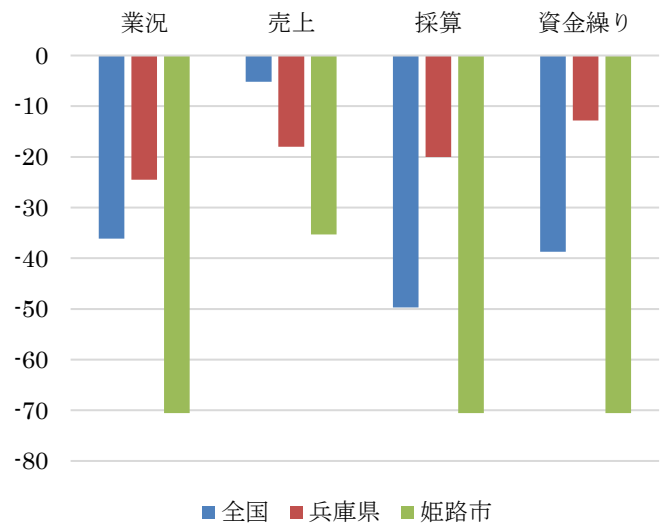
建設業DI値



サービス業DI値

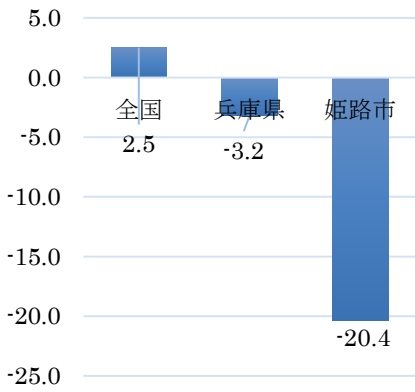


商業DI値

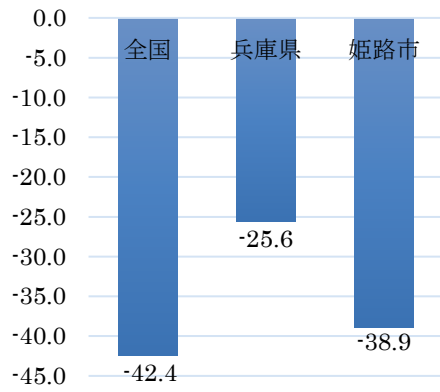


全業種 DI 比較

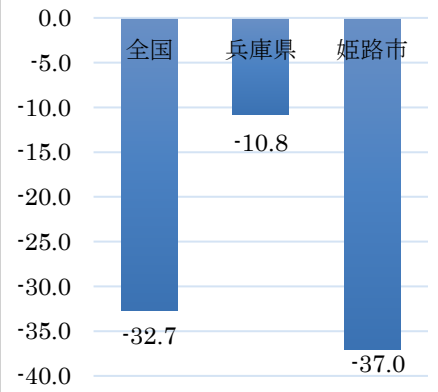
売上DI値



採算DI値



資金繰りDI値



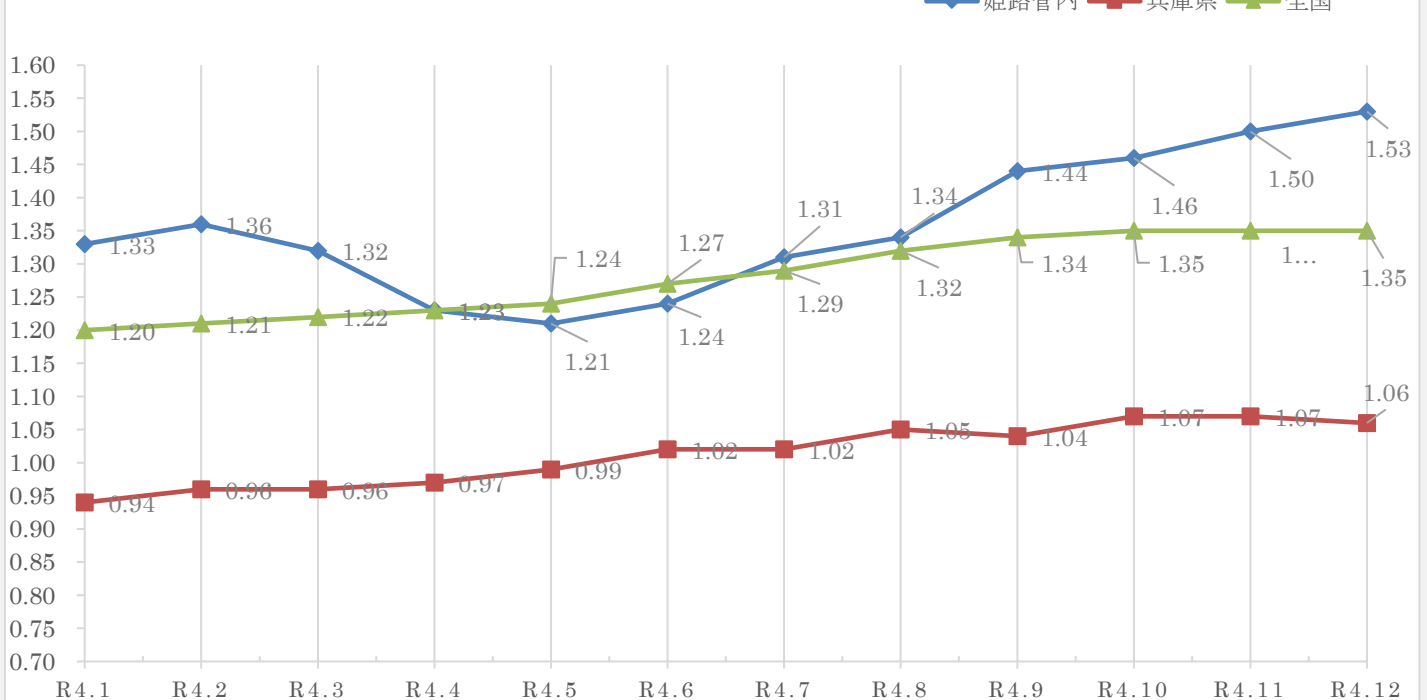
管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍
 令和 4 年 12 月期の有効求人倍率は、全国 1.35 倍、兵庫県 1.06 倍、姫路管内 1.53 倍となっている。
 令和4年 1 月から 1 年間の推移を見ると、全国においてもほぼ横ばい傾向であるものの、緩やかな改善が見られる。兵庫県と姫路市もほぼ同様傾向である。物価高などを背景に転職に慎重になる動きも続いたが、企業も景気の先行き不透明感から求人にも慎重な動きが出ている。

兵庫労働局は足元の雇用情勢について判断を据え置き、「求人が求職を上回っているものの、持ち直しの動きに足踏みが見られる」と、前月までの「持ち直しの動きが見られる」から下方修正した。雇用情勢判断の下方修正は 21 ヶ月ぶりである。

一方で、新型コロナウイルス感染症等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要があると、引き続き指摘した。円安や資源高などの影響も合わせて見極める必要があるとの見方も示した。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較